

# 第二回 オカヤ駅から未来プロジェクト

## 【事務局】 会議冒頭挨拶

- ・5/20 に開催した第1回駅からプロジェクトの意見を踏まえて将来ビジョンの作成を行っている。
- ・5月 交通量調査、8月市民アンケートの実施を行なった。
- ・その結果を骨子としてまとめた。
- ・委員の忌憚のない意見を伺いたい。

## 会長挨拶

- ・5/20 に第一回を開催し、会長に選出された。
- ・その際は、まだまだ内容は薄かったが、今回は、かなり内容書き込まれてきているので、個別の章ごとの内容を確認してほしい。

## 議事

※今回の会議は全て報道に公開することにする。

### (1) 岡谷駅周辺街の将来ビジョン、プレイスビジョンの骨子について

- 【事務局】：前回の意見を踏まえ、骨子としてまとめた。内容について精度が低いところがあるが、詳細については今後調整する。  
将来ビジョンおよび、プレイスビジョンをコンサルに説明してもらう。

## 将来ビジョンの説明【コンサルA】

資料「将来ビジョン編」は、岡谷市の将来ビジョン策定の目的、背景、策定体制、および岡谷市と岡谷駅周辺が抱える課題について詳述しています。

### 1. 将来ビジョンの策定目的・背景・対象エリア

目的: 市外の人にも理解できるように、20年後のまちの姿を描く。プレイスビジョンでは各エリアの活用法を検討。

背景: 製糸業から精密機械工業都市への発展という岡谷の歴史を掲載。人口減少などの課題に加え、ララ跡地への関心とまちづくり会社設立による機運の高まりが背景にある。

岡谷の変遷: 1980年頃をピークに人口が減少していることをグラフで可視化。

対象エリア: 市役所、駅、湖畔の3エリアを指定し、相乗効果を目指す。

上位・関連計画との位置付け: 総合計画等において、岡谷駅の交通結節機能強化、新たな拠点形成、都市機能強化、観光推進、公共施設再編などを位置付け、官民連携によるまちづくりを進める。

策定プロセス: 市民アンケートやワークショップを実施し、市民と共同でビジョンを策定。

### 2. 岡谷市・岡谷駅周辺の課題と強み

人口: 人口減少、少子高齢化が顕著で、特に若い世代の流出が課題。定住人口の維持、関係・交流人口の拡大、若い世代の定住促進が急務。

財政・産業: 税収減の厳しい状況にあり、既存資源の有効活用が必要。

都市構造: コンパクトながら都市機能の老朽化による再編、空きビル・空き家・空地の有効活用が課題。

上位計画実現上の課題:

市全域: 人口減少による地域コミュニティ形成の困難、公共施設の老朽化、空き家・空き店舗の増加、車社会からの公共交通への転換、諏訪湖畔のポテンシャルの活用不足。

都市機能誘導区域: 都市機能が点在し、核となる機能・施設の連携不足。

岡谷駅周辺: 交通結節点としての機能充足と活性化、交通利便性の低下。

強み: 駅周辺のまとまった市有地、高いアクセス性、交通結節点であること。諏訪湖やシルクの歴史も強み。Open Okaya など関係団体や信州大学との連携による豊富な人材も強み。

岡谷らしさ: 市民アンケートで「自然、歴史文化、ものづくり、人コミュニティ、繋がり、暮らしやすさ、子育て、若者」といったキーワードが頻出。特に「暮らしやすい」という意見が多い。

【会長】：ここで一旦区切ります。

課題や上位計画とのつながりについて説明してもらった。

課題の取り方はどうか、弱いなど意見を交わしたい。

その前に、アンケートをどのように実施したか確認したい。

会議冒頭挨拶にて、交通量調査の話があったが、それも合わせて伺いたい。

【コンサル A】：P73 を確認してほしい。

アンケート実施の目的：魅力度期待度を定量的に把握するため。

実施先：岡谷市公式 HP、子育て支援アプリ、岡谷市 Line でアンケートフォームの発信を行い実施。

期間：8/1～31 の1 か月間。

備考：コストの問題により、オンライン回答を実施。有効回答数 450。

A～F のゾーンに分け設問を設定した。

ゾーン別にみると、いずれも半年に一回の利用が最多。

ゾーンの魅力度について、諏訪湖畔エリアが最多。駅周辺は魅力的ではないといった意見が多い。

P76 では今後のまちづくりの期待度を設問とした。

→岡谷駅、岡谷駅北口、諏訪湖畔の期待度が高い。

P77 充足すべき事項について

→休む場所、居心地よく過ごせる場所という意見が多かった。

年代に幅広く利用できるようにしてほしい。安全に利用できることといった意見が多かった。

ララオカヤの跡地にどのようなことを求めるかについて

→ゆっくり休む、人や公共交通を待つ、居心地よく過ごせるという回答が多かった。

まちづくりの関わり方

→意見やアイデアで伝えたいという考えが最多となった。深く関わってもらう人を探すべき。

P79 では属性をまとめている。

- ・就業、就学など岡谷市に関わりのある岡谷市外の方にもアンケートに回答していただいた。(全体回答の約5%)
- ・30～50代の方に多く回答してもらった。
- ・岡谷らしさについて、キーワードを抽出した。まとまりが出来次第資料作成する。

【会長】：ここまでで、ご意見ご感想があれば伺います。

【委員D】：課題についてまとめていただいた。課題は大切だが、より厳しく指摘しても良いかも。人口減少についても根本的な課題があるはず、人口維持についても厳しい。もっと要因を厳しく見てもいいのではないか。内部の人間では、臍膺が発生するので厳しく見ることはできないが、コンサルであればもっと踏み込んで分析できる。できれば課題の掘り下げをしてほしい。

【会長】：アンケートには童画館通りの魅力が低いと話があった。童画館通りの人としての意見を伺いたい。

【委員C】：岡谷の人はおとなしい、表に出ない、という認識。童画館通りでも活動を行うには難しい。童画館通りに人を呼び込む方法を見出したいが情報発信が不十分。そこにいる人がいまいちだと思っているので、来る人もいまいちだと感じてしまう。少しずつ変わっていかばいいと思う。

【会長】：アンケートでは145人ほど、関わりたいと意思表示をしたい人がいる。岡谷に愛着を持っている人がいるという結果が見えた。副会頭いかがですか。

【委員A】：人口が減っている中で、岡谷だけ減少率が高い。住んでいる私たちはこれが普通だと思っているが、もう少し課題を掘り下げていかばいいかと思う。

【会長】：岡谷市は人口減少が著しい。居住地特性の問題などがある。数字的な問題は資料からは読み取れない。なぜ人が他よりも減少してしまうのか、課題を明確にしてほしい。グラフよりも何%減と明記した方がいい。駅や童画館通りを期待している声がある。駅長さん、高校生の意見は少なかったなので、補足的なお話がありますか。

【委員E】：今後期待しているというのは、今が不満という裏返しになる。廃墟の解体に期待しているのがわかった。この骨子は市民に向けた骨子か、会議のための骨子か。

【事務局】：今回の骨子は会議のために作成した。市民へは完成版を公表する。

【委員E】：特に岡谷駅を選定された理由について、これらの場所は、元々基本計画やマスタープランがある上で選ばれたものだと思いますが、その選定理由が「誰に対して」の説明なのか気になりました。

【会長】：駅周辺にまとまった市有地があるのが強みとなった。通常は駅周辺に市有地を持っているのが良くないことにされがちだが、今回は良い結果になった。資料の説明の再開をお願いします。

【コンサルA】：資料の28ページをご確認ください。

### 3、岡谷駅周辺街の将来像

現状と課題を踏まえた将来像: 岡谷らしさを維持しつつ、新たな魅力を創造することを目指す。低利用の駅周辺土地活用が最優先事項。

まちづくりの基本方針: 駅周辺のポテンシャルを活かし、エリア全体の価値向上を目指す。社会変化に柔軟に対応し、良い取り組みが価値向上に繋がる「ポジティブスパイラル」を実現。駅前等のパブリックスペース活用を起爆剤とした戦略的まちづくり。

目指すまちの将来像: 「岡谷駅エリアから始まる、みんなで織りなす魅力の連鎖」を掲げ、新しい挑戦を推進。駅周辺整備を最優先とし、駅前の魅力を市民に広めることを目指す。

将来像の実現に向けた取り組み: まちの将来ビジョンとプレイスビジョンを共有しながら、段階的かつ連鎖的にまちづくりを進める。

#### 4. まちの将来ビジョンの実現に向けたエリアビジョン

エリアビジョンの構成: 市役所周辺、駅、湖畔の3つの対象エリアをさらにA~Dの4つに細分化し、それらを繋ぐ「ネットワーク軸」と、まちづくりの根幹となる「土台」で構成。

エリア A(岡谷駅および岡谷駅北口): 居心地の良い空間、憩いの場、既存施設への誘導を目指す。

エリア B(市役所周辺): 都市機能の集約、観光機能強化、文化交流の場づくりを目指す。

エリア C(諏訪湖畔): 岡谷駅からのアクセス向上、諏訪湖の景観を活かした魅力的な空間づくりを目指す。

エリア D(岡谷駅南): 駅北口と一体的な利用を目指す。

ネットワーク軸: 個性的な資源・スポットと連携した魅力的な空間づくり。

土台: 市民と市の協働によるまちづくり(行政主導から市民主導への転換)。

#### 5. 岡谷駅周辺まちの将来ビジョンの推進に向けて

役割分担と連携体制:

行政: 民間が取り組みやすい制度構築、ハード整備。

民間: 自由度を活かした主体的な取り組み。

推進ロードマップ: 20年後を見据え、各エリアについては5年後を区切りとした具体的な計画を策定。

【会長】: プレイスプランについても説明をお願いします。

(2) プレイスビジョンについて

【コンサルB】

市民26名とのワークショップ(現在4回目)を通じて作成。

コンセプト、方針、アクションプログラムを詳細に設定。

市民との意見交換を密に行い、序章~第4章で構成。

ララオカヤ跡地プレイスプランの例:

コンセプト: 街の顔となり、市民の多様な活動を受け入れる空間。

方針:まちの顔としての拠点(例:モニュメント設置)。  
市民の多様な活動を促進(例:様々な滞留空間創出)。  
持続性のある広場運営(例:整備過程での愛着づくり)。

将来像:用途に応じた広場、カフェスペース、ビスタ(眺望)などを備える。

- 【会長】：拠点ごとにお示しいただいた。書き込んでいることとさらっと言っているところがある。わかりにくいのが、プレイスビジョンと将来ビジョンの関係性。ビジョンという言葉が重複してわかりにくいと思う。将来ビジョンにプレイスビジョンが差し込まれる形になりそう。  
WSでは市民が多く集まったが、一般の人がわかりにくい資料になってしまった。目次があるのが余計にわかりづらい。
- 【委員B】：読み始めていくとどういうふうにまとめるのかわかりづらい。各種内容に繋がりが無いので、理解しにくい。プレイスプランとどのようにリンクするのか不明瞭。
- 【委員F】：岡谷駅から元気にしましょうというコンセプトのもと岡谷駅を考えてほしい。新幹線の停車本数は、茅野駅や上諏訪駅が16本、岡谷駅は14本。なぜ停車数に差があるか。利便性が低いからである。駅から駐車場の距離があるのが原因の一つ。茅野駅はすぐ横に駐車場があるから利用度が高い。駅の利用度の向上について考えてほしい。使い勝手を良くしてほしい。
- 【事務局】：ご指摘はごもっとも。「切り口がどこにあるか」これを考える必要がある。今の意見は駅の利用者が増えれば、人も増えるだろうという主張だが、このビジョンは逆で、駅の広場の魅力が上がれば、利用者が増えるという作りになってくる。茅野駅の例は実行計画。この話については、これから考えていきたいと思っている。まずは、このプランの実行を考えてから利便性の向上について、考えていきたい。
- 【委員F】：新しいものを作るということは古いものを壊すことの裏返しである。「今の文化や歴史的なものをどこまで維持できるか」について考えることが重要ではないか。
- 【事務局】：古い建物の保存方法については別の計画があって進めていくもの。スクラップアンドビルドに関しては、古いものがあればそれを生かしたまちづくり(小諸など)で活かせるが、岡谷でも同じことができるのか、検討していきたい。
- 【委員A】：補足で、P44に諏訪湖への転換口という文章があり、駅南の利用促進を考えてかなくてはならない。駅の乗降口を2階に上げるなどそういうことが将来想定されるなら、意見が出やすい。例えば、南口は乗用車のみ、北口は公共交通のみなど利用形態に関する考え方がなければこれからの話が生きてくるはず。
- 【委員F】：茅野市の例を出すと、茅野駅利用促進協議会で利用者増加に向けた努力をしているというのは言いたい。
- 【会長】：駅に用事がなければ駅の利用者は増えない、駅前が大切である。  
小諸市の例では、電車や新幹線の利用ではなく駅周辺の施設(マルシェなど)に目的があって利用者が増えている。公共交通に対しては、優先的に変えたいことは変わらないが、まずは駅前の広場を変えていきたい。  
プレイスプランでは、桑畑があったりしている。

岡谷市では、手探りで進めておりどうなるかについては、まだ未確定となっている。ビジョンという名称がわかりにくい。プレイスビジョンは変えてほしい。

- 【コンサルB】：言葉が重複してわかりにくいのはある。まず、主従関係なのか、どういう横連携なのかみたいなどころからまず調整させていただきたい。岡谷市で必ず使うというものではないので、名称の変更を検討していきたい。
- 【会長】：ポジティブスパイラルは、取り組みとして良いと思う。WSの皆の声を収集して、意見がないとどこにでもある意見だけではなく、建物を建てるだけが目的ではなく、時代に合わせて修正していくことが必要。まちづくり会社の取り組みについて期待が高まっている。
- 【委員A、B】：期待に応えられるようにしたい。若い人の意見を取り入れ、いろんなところに反映できるようにしたいと思っている。  
ビジョンと今後の取り組みがどのようにリンクしてくるか次回のプロジェクトで伺いたい。
- 【会長】：時間がないので確認となるが、検討します、促進しますと言い回しが多い。市役所内に部署を作るという文言もある。事務局に確認しますが、内容はそれでいいか。
- 【事務局】：部署を作ることについては、まちづくり整備課がそれを担っている。
- 【会長】：新設って書いてあると、これからでてくる話になる。  
ロードマップ的には、暫定整備や暫定利用について岡谷市が整備し、まちづくり会社が取り組みを行うということでいいか。
- 【事務局】：良い
- 【会長】：この5年間は岡谷市にとって大切な時期にある。アルピコ交通にも携わっていただきたい。
- 【委員G】：送迎の車が昨今増えている。ロータリーがカオスな状態になっている。整備してもらうのが良いと思っている。バスだけでなくタクシーも乗務員不足が顕著。必要なところに支援をするということをお願いしたい。
- 【会長】：ビジョンについては、わかりやすい（他の市町村と比較すると）。  
文章を2、3行にまとめてほしい。  
各委員より一言、次回に向けてやったほうがいい、私はこういうところに関わりたいなどの意見を伺いたいと思います。
- 【委員A】：ララオカヤの解体に向けて動いている。北と南の連携を取れるように5~10年後の目標を立てるようにJRと話しながら進めて行ってほしい。
- 【委員B】：将来ビジョンについて、さらに意見できるようにしたい。中心市街地についても、市民のためやどういうふうに消費するのか実際に実現可能なことは何か探していきたい。
- 【委員E】：アンケートの結果は、期待の表れだと思う。プレイスビジョンについて、多くの人に関わって議論している。良いものができれば思う。

【委員F】：岡谷はすごいと思えるよう案を作ってほしい。テナント料を取らないとか。

【委員G】：ララオカヤ、駅前整備がメインだと思うが、ビジョンでは色々場所が出てきてわかりにくい。ララオカヤのところをどうしていくかわかりやすく書いてほしい。

【会長】：以前、商工会議所が作成した未来図があった。あのよう一枚の絵に実行することが書かれたものが最後に出てくれば良いかと思う。

【事務局】 会議閉会挨拶

- ・委員の皆様からは忌憚のない意見をありがとうございました。
- ・これまでの行政主体から市と民が連携協力してまちづくりを進めていく。
- ・内容の校正、名称の重複は見直していきたい。
- ・次回にはより資料をブラッシュアップして作成していきたい。